

おもてなし

私はひがた美術や雑誌や刊行の教學の立場の認定にも合うことを望み制作及び作品開示を行っているのです。それが他の組織にでも合うことはよりローテンスルため開催された展覧や開閉式の認定を中心とする所です。

はじめまして、私は大村仁志と申します。このたびギャラリー・サージにて「文化的な生活——その過酷さへの想点」という題

目で懇親を行ないます。2ページ以降の文はその実行にあたっての表明文です。私はその文に自身の立場、営為の内容、志向して

いるもの、を記したつもりです。能力の未熟さから多少の長文となりました。

なってしました。
拙文によって貴重な時間を浪費させてしまうことになるかも知
れないので心苦しいのですが、御一読され、興味や関心がわきま
したら御座願ください。

なお、場所、日時などの事務的事项は一番最後のページに記し
てあります。

さて、この文章は、大抵のものとおり、それに開道できない者は見渡す際の参考となるとおもふ
けれど、それと並んで、それを読む者としての立場を考慮する必要がある。それは、その手
に持つて「中高生」「人間研究者」「アーティスト」「教師」「学生」「教員」「高齢者」「高齢者研究者」
の四種の立場である。この四種の立場が、各家庭や各種組織に通じて、各自の立場を確立す
る立場になります。たゞ、自らの立場を確立するには必ずやきめ、慎しみを以て、
そして誠実を含む態度があります。

1992年1月 大村 仁志

また、この文章は、大抵のものとおり、それに開道できない者は見渡す際の参考となるとおもふ
けれど、それと並んで、それを読む者としての立場を考慮する必要がある。それは、その手

に持つて「中高生」「人間研究者」「アーティスト」「教師」「学生」「教員」「高齢者」「高齢者研究者」
の四種の立場である。この四種の立場が、各家庭や各種組織に通じて、各自の立場を確立す
る立場になります。たゞ、自らの立場を確立するには必ずやきめ、慎しみを以て、
そして誠実を含む態度があります。

私は「オカッセ」の管理を行なう組織や監督や監視、保護の立場の問題として想いがでています
もう一度言おう。それは、組織された、監督された、ある組織的な場面をもつての営為をすることを表す言葉

するが問題である。つまり、いかにも開いていたかの状態から、一方で内面化を促進して隠めていた

私はかつて知覚や認識や判断や欲望の生成の場面に立ち会うことを見み制作及び作品発表を続けていた者です。その生成の場面に立ち会うことによりパターン化され管理化された欲望や感覚や思考をゆきあり変革する可能性を求めていたのです。この「パターン化され管理化された欲望や感覚や思考」の前には、自分自身を含めた、日常的、世間一般の、社会一般の、表現行為一般の、といいういまわしが暗示されています。つまり私は自分自身や日常や社会一般や表現行為一般の様々な思考や感覚、感性、欲望をパターン化され管理化された可能性のないものだとみなし、その脱出口として様々な価値や欲望や知覚や判断が生れいする場面（生成の場面）を求めていたといえます。

ところで自分自身を含めたと述べましたが、脱出口としての生成の場面に立ち会うことを見み制作し、作品として発表する以上、作品をより良く提示できたと思い込んだ場面では私はパターン化され管理化されたものから逃れ、私以外の他の一切は未だそれらにとらわれていることになります。結果私は絶対的な優位性を獲得し、他の一切を見下すことになります。

私は日常生活から現象学的視点から見れば私の現状は生きづらさや不適切さからくることとが問題な私現状のもうろろに不安や理不尽さや精神なり感性なりの貧困や問題や矛盾を見いだし、少しでもより良く変えたい、生き生きとしたい、という願いから出発した表現行為はある理想的な場面を提示できたと思い込んだ瞬間に自らの優位性を主張し、それに同意しない他の一切をさげすむという構図に囚われてしまいます。少なくとも私はどうしてもそうなってしまいます。芸術という高尚な名がつくとそのさげすみ方はいっそ残酷なものとなり、それに同意できない者は無知で無教養で野蛮なのだという暗黙の共通認識が生まれます。毎日決まり切った仕事をして生き抜いていかなければならぬ人はそのさげすみに例えば「お芸術」と言う言葉でもって対抗し、遂に芸術をさげすみ返します。そうなると芸術の世界はそのような日常の生活の世界からのさげすみを娘娘に感じたり自身の（芸術の）高尚な優位性を主張してますます日常生活をさげすむか、または自身の存続のために芸術の自律性を主張し日常生活の世界を無視するようになります。日常の生活世界と芸術の世界の間にはさげすみ合い、憎しみ合い、そして無視し合う関係があります。

現状の現象学的視点から見れば私の現状は、結構の事、あるいは一般的二重構造の構造によるものであります。また日常の生活世界から見れば私の言う「パターン化され管理化された場を変革すべく行なう（あるいはつくる）生成の場面」の数々もどうにもこうにもわけがわからず、結局同じパターンしか伝わらず管理化から逃れているのだとどうして言えるのだろうということになります。

私は「パターン化され管理化された欲望や感覚や思考」の問題は自身の問題として引きずっていくつもりですが、それから逃れた、解放された、ある理想的な場面としての作品をつくることは差し控えよ

うと思います。現在のような状況では、また現在の私の状態では、抑圧され管理化され貧困化した精神や感性を生き生きと解放しようとする表現行為も、美的な感動や快さを享受し人間の情操を高めようとする表現行為も、端的に感動したいと思って行なう表現行為も、芸術の多様な各要素を検証して探めていき自律性を持った芸術をうちたてようとする表現行為も、手ばなしに芸術や文化、あるいは美術やアートの名のもとに行なうことは日常生活の世界とのさげすみ合いや無視し合う関係を強めてしまうだけのように思うのです。

いくら芸術の世界が高尚な優位性を主張して振る舞ったとしてもそこから日常の生活世界にたいして「芸術とはいっていい何であるのか、なぜいくばくかの高貴さや優位性を主張することができるのか。」についてのはっきりとした説明があり、日常の生活世界が本当に納得できれば話は違ってくるかも知れませんが、（ただしそのためには日常の生活世界と芸術の世界との間でより良い関係を持つようとする誠実な討議や実践がたゆまなく持続的に行なわれる必要があると思われます。）今日の現代美術の世界のように「とにかくアート」という分野があり、作家（アーティスト）がいて、評論家がいて、アーティストがアートと言えばアートなんだ。』というような説明がまかり通るようではとうていそんなことは望めないでしょう。

私は日常生活と表現行為と両方にかかり、私の取るに足りない能力でかかり合うことが可能な私にとって切実な問題を提示し、その問題にたとえわずかでも立ち向かうための場をつくりたいと思います。

私の最近の作業は「文化や文明が進んだ現在社会の日常を取り巻き、私の想定や日々の行動に横付け、暴力と物象化された関係と野蛮さ」ということに焦点を当て、それを中心的問題としています。

暴力というのは他者を抹殺するか自身に完全に服従させてまで自身の存在を誇示しようとする理不尽な力のことです。他者の存在を脅かそうとする様々な悪意もこの暴力に含まれるものとします。

物象化された関係というのは本来物と物の関係でないものが物と物の関係になるということで、例えば人と人の関係が互いに便利な道具（物品）として利用し合う物と物との関係に転化するということです。

野蛮さというのは文明化された文化的な視点から未開の世界を見た言い方です。我々が暮らす高度情報化社会、高度商業社会から見れば未開の地、辺境の地、あるいは一昔前二昔前の迷信にとらわれた生活や奇異な儀式やその極限としてかつて行なわれていたとされるいけしえの儀式などを野蛮だと言います。野蛮と対立し野蛮を克服するものは単純に言えば文明であり文化であり啓蒙なのですが、そして私が生活している場は文明や文化が発達し啓蒙的な教育が万人に義務づけられましたそれを受ける権利が保障されている日本と言う先進国でありその日本の中心的地位をしめる東京のすぐそばなのですが、私のまわりにはある所から見ればばかげた迷信と見える様々なマニエールに満ちあふれ、様々な集団やグループが奇異な行動を儀式のごとく繰り返し、（現代美術も外部者からはそう見えると思います。）様々

なレベルでいにえが用意され人々を安心させたり活気づかせたりしています。（スキャンダル、いじめ、中傷、悪意をこめたちやかし、など数限りがありません。また他の施設での報争や大事件によって活気付く自我や社会集団の精神構造は、いにえによって活気付く自我や集団の精神構造とあまりにも酷似しています。）私も日々それらを実行しながら生きているわけですが、こんな生活は文化や文明により野蛮を克服した生活とはとうてい言えるものではなく、ますます野蛮に進展していく生活と言ったほうがいいです。しかもこれは過去の歴史的因縁を否定してより良い文化的な生活を望み推し進めた結果なのです。これら暴力と物象化された関係と《文化的な生活ゆえの》野蛮さは私の想定の中に根付き、私の日々の行動の基盤となっていることが私は苦しいのですが、日々の日常をとりまいていないのならば私の被害妄想ということになり私自身の私の問題です。ですが私はこの問題を私のみのものとしてではなく我々の日常をとりまく文化的な生活の問題としてとりあつかいたいと思います。

私やあなたの日々の生活も文化的な生活を推進した結果のまっただなかにありますし、そして今後もより良い生活をめざして加速度的に推進されるでしょうし、現代美術と呼ばれるものを含む各種の芸術としての表現行為も文化を発展させあるいは文化の存在を保証するものとしてその責任なり存在根拠なりをおっています。したがって「日常の文化的な生活の問題」としてとりあつかう以上そのかかわりの解説は非常に長く現状の日常生活と文化と芸術全般にかかる事柄です。

私のいくばくかの作業の提示でもってこんな解説の長い問題を大風呂敷でもって取り上げても良いと思えるのは私の作業が日常をとりまくマスメディアを中心的題材としてあつかっていることによります。

マスメディアのうち私のかかわりある範囲内ということで印刷物を題材にしています。具体的にどのような作業なのかは後で述べますが、もしマスメディアが伝えるものが暴力と物象化された関係と野蛮さに満ち満ちているとしたらそれは私の想定に根付いた私のみの問題ではなく我々の今日の問題と言って良いかと思います。なぜならマスメディアは多種多様な人々の想定を断片的にではあれより多くの人々に発信し続けていますから、またマスメディアは具体的な事件や出来事や人々の想定の伝達役であると同時に今日では文化の伝達役でもあり形成役でもあり、マスメディアをぬきにしては我々の生活も芸術としての表現行為も文化も成り立たなくなっているでしょうから。

私は自らの作業や提示を通してマスメディアが伝えるものが暴力と物象化された関係と野蛮さに満ち満ちているという一側面を露らし出し、私の想定に根付いた問題を我々の今日の問題としてあつかうことを要望するのですが、私は自身の作業を通して日常の文化的な生活もマスメディアの伝える事柄も自分勝手にひどく歪めてしまっているとも言えるわけで、私の提示するものが日常の文化的な生活やマスメディアにかかわる一側面を確かに露らし出しているかどうかが画面会場であなたと私の手によります回われなければならないでしょう。私はまず未臨された方とそのことを討議しようと思います。

ただし一つ付け加えなければいけないのですが、私は日常を取り巻く暴力と物象化された関係と文化を推し進めた結果の野蛮さを問題にしていますが、それらを単純に否定しそれらがない生活を提唱する

ために取り上げているのではありません。——暴力的な力は人間が自身の存在を築くために必要です。子が親から独立するためには親を何らかの形で否定し尽くす暴力的な力を何らかの形で実行しなければなりませんし、親が子をしつける場合は（嫌がる子を無理矢理に一定の型にねじ込むわけですから）何らかの形で暴力的な力が実行されます。また暴力的な力が人間を活気付かせ困難な問題にも立ち向かわせる原動力となっている事も現実だと思います。——全く物象化されていない状態は力やエネルギーのみが渦巻くカオス（混沌）の場として想定するしかないでしょう。したがって秩序がある関係を他者と持つためには必ず何らかの物象化された関係を打ち立てなくてはなりません。——文化的な生活の推進こそが野蛮の推進になるといつても文化そのものを否定してしまえばさらなる野蛮な状態があらわれるのを防いでいます。文化や文明そのものを否定したら現在の生産、流通、消費、再生産の機能は麻痺してしまう我々は飢えて死ぬ危険に直面します。身体的な病気を防ぎ治療する手段もなくなります。実際の殺人やテロルを予防する手段を何ら持たせなくなります。自己と他とのより良い関係を築こうとするいっさいの努力が無に帰します。——暴力的な力も物象化された関係も野蛮を進める文化も我々の存在や生存や生活のためになくてはならないものです。ですから私はそれらのことを日常生活や文化全般にかかわる問題として提示しそれらの問題に少しでもかかわろうとする場をつくりたいのです。

今回の画廊会場では具体的には次ぎに述べるような作業でつくられた制作物が提示されます。

私の作業はまず雑誌、新聞、新聞の折り込みなど日常生活の中でごく簡単に手にはいる印刷物の切り抜きから始まります。（雑誌類は駅の売店かコンビニエンス・ストアで手にはいる週刊、月刊の物です。）気にかかったり気にいったりした単語や言回しや写真を切り抜きます。私にとりなせそしてどのように気にかかったのか気にいたのかが問題ですが、まずは暴力性やうむをいわされ強制力や差別意識やさげすみや悪意や敗まんや偽善を感じるもの（単語、言回し、写真）には私は敏感に反応してすぐに切り抜きます。また未来への希望や人への信頼感をあたえてくれるものを見つけてそれを切り抜きます。非常に印象に残った近年の数々の事件に関するものを切り抜きます。日々の生活の中でよく使われ私の行動や生活を納得させてくれるものを見つけてそれを切り抜きます。共感できる単語や言回しを切り抜きます。感動した言回しや短文を切り抜きます。このように切り抜かれた単語や言回しや文章や写真は日々の生活の中で私を活気づけたり意味づけたり私の心情に何らかの変化を与えてくれたり私の複雑な心情を一方向に方向づけたりするマスメディアから伝わる強度のあるものだと言えます。例としてあげると「快適で豊か」「もっともっと」と「ストレスを解消 性格もぐっと明るく」「衣食住より心の豊かさ」「ありがとう」「まさにピンポイント爆撃」「余裕がほしい」「梭門狂死」「遠いのわかるあなたに」「子供のためにだけ生きる」「良いモノたくさん」「人生への挑戦」「新発見」などが切り抜かれます。また写真映像のほうは人の顔写真が圧倒的に多くその中でも若く美しい笑顔の女性の写真が大きな割合を占めています。

その強度のある切り抜きを何らかの関連がつくように木片をボンドで組み合せた物や日常雑貨や玩

具や使い古して今はゴミとして捨ててしまう物の上に張り合わせます。木片を組み合わせた物は人間の建造物や創作物の比喩として使い、日常の消耗品は日常生活への想いを触発するために使っています。

切り抜いた単語、文章、写真をどのように組み合わせるかはその時の気分によって違いますが、わざわざ悪意や暴力性や現実の過酷さが露呈するように組み合わせたり――これは私にはしごく簡単にできます。（例えは「衣食住より心の豊かさ」「より豊かで健康な明日のために」といういっけん希望をたくされた言回しは「幸せ」「快適で豊か」「もっと、もっと」「ストレスを解消、性格もぐっと明るく」「成績向上、性格改善、ストレス解消」「高級」という言回しや若い女性の笑顔とともに組み合わされ悪意やうむを言わぬ暴力的な強制力や差別意識が感じられるものになってしまいます。）――人への信頼や想いや希望が失われないように注意深く組み合わせたり――これは非常に注意深く行なわないとすぐに悪意のひやかしの言回しが入ってきてすべてを台無しにします。――否定したりちやかしたりするわけにはいかない信じるべき望みが感じられるものと悪意のひやかしを組み合わせて結局はどう見えるのか確かめたり、何だかわからない内に自然と言葉が組み合わさったりします。

またそれら印刷物の切抜きと組み合わせによる作業を行ないつつ日常の生活や表現や自分自身のことについていをめぐらしている内に「これくらいのことだったら言いえる。これだけは言っておきたい。」と、いうてあいで抽出されたごく短い文章群ができてきました。いわば私の言い分じみたものです。日々の心情の違いからちやかしになったり、卑屈になったり、傲慢な言い分になったり、やっとの想いで抽出したと言えるものがたり、感銘を受けた本の文章の抜粋や言い換えもありいろいろです。

これらの各短文はワープロで打ち出され約100cm四方の白く塗られた板の上に張られ先に述べた印刷物の切抜きと木片と生活雑貨とでつくられた物と組み合われます。切抜きによる制作物と短文はその意味がたがいに関連づくように組み合われます。（先に例として出した「衣食住より心の豊かさ」「高級」を組み合った木片には「現在ではより良い人間関係までマニュアル化される」と書かれた白い板がはられます。）

このような作業を通してできた制作物を整然と会場を埋め尽くすような形で提示します。それは様々なマスメディア、様々な悪意、様々な暴力、野蛮な状態、過酷さをまず物象化された関係、疑いの眼差しでみることが可能になってしまった希望、かすかにでも残る否定するわけにはいかない希望のかけらが日常を整然とおおい埋め尽くしていることに対応します。

私はある意味では日常や文化的生活を過酷なそして野蛮な側面に焦点を当てて見つめなおすための装置として、日常の生活や文化の一侧面を限らし出すものとして、通産会場で提示します。（別な意味では、現実に生き生活している人間の想いとかかわりあうための私にとっての試みと言えます。）

参考文献

私は最初から暴力性や文化ゆえの野蛮さに焦点を当てて印刷物を切抜き、組み合わせる事によってその側面を強化し、私の言い分じみたものが入る事によってさらにまた強化されているわけです。したがっていくら日常を取り巻いている印刷物を中心的題材としていても私の今回の提示が日常の一侧面を確か

に筋らし出しているものなのか、それとも私の判断にすぎないのかの決定や判断はもはや私の権力を超えているように思います。どちらに転んでも自己正当化にしかならないのです。尚にも述べましたがこの判断は実際された方と私との討論なり会話なりを通して妥当な判断を下していくという方法を取りたいと思います。

現在の日本では物は豊かになり、貧困はなくなり、具体的な戦争状態でもなく、表現の自由は保障され、多種多様な美しく技術された表現行為が日常をとりまき、顧客な情報説明もなく、あからさまな情報操作は非難されます。技術は進歩し、生活に還元され、より便利に快適になります。様々な身体的病害は次々と克服されます。あからさまな差別は非難され、本人の努力と工夫により各自の個々の能力を向上させ生活のレベルを上げるチャンスが万人に開けているとされています。とにもかくにも生活必需品が豊かになったのでこれからは心や精神を豊かにする文化を盛める筋に走っているとも言われています。芸術文化振興のための基金や活動がありこれで始められています。少なくともこの文豪が届くところではそのような現況であると想われます。かつてこの辺を豊かに駆逐した跡はなかったとも言えるでしょう。しかし私はこの豊かな日常生活や芸術を始めとした表現行為の中に暴力や物象化された闇黒や野蛮さが渦巻き湧き出でて、現在の方向を手放しに駆逐すれば今後の文化的活性化とともにそれらはその活性化を増すと思っています。それゆえその問題とかかわりあう事を望む者です。

私は美術を極め専門家学者や研究者ではなく、訓練や研究を積み重ねその道をきめめようとしている個人や芸術家や作家と言える者ではとうていなく、美術の分野を多少書きかにったとしてもちらりくらりと好き勝手にうまく立ち回ってやってきました。作品を発表し続けてきましたので自称「作家」としてやってきました。そんな私がるとたらない能力でもって自身の被虐包帯的な主張でもって日常の生活や芸術を始めとする表現行為や文化の今日の方向に対して頭を悩ませ問題じみたものを提示するのはこっけいであり価格きわどりないのですが、この気に満ちてもその問題とやらを見に行ってみようとか何か一つ話題に行ってみようという気になりましたら脚本座ください。私は連日画廊にいるつもりです。私の提示に対して、あるいは私とあなたの共通の問題を見つけて、討論なり会話なりの場を持てれば幸いです。

大村 仁基

著者紹介

この文を手にされた方は現代美術の分野で活動されている方がその大半であると思います。この文でも触れましたが現代美術の世界では「とにかくアート（芸術）と言う分野があり、アーティスト（藝術家・作家）や評論家がいて、アーティストがアートと言えばアートなんだ。」という言い合がまかり通るようになってきました。アートのより自由な可塑性と自在な在り方とを保障した長い歴史です。しかし私はこの単の言い分など敢て人を狂かにしたものはないと思います。由来や自らの分野の存続性と創造性のみを主張しその根拠や理由は何も言わないのですから。。。しかもこのような現況であるにもかかわらず今日の日本では作家や現代美術関係者からも行政からも企業からも芸術や文化の推進が叫ばれます。これは日常の生活世界をばかにしたひどいやり方だと思います。私はこのような世での芸術文化の推進はどうしても避けたいと想みます。

私は脚本化された方が現代美術や芸術的表現にかかわっている方ならば「脚本美術と呼ばれるものは何なのか、芸術と呼ばれるものは何なのか、その意味など、技術付けなど、個性なり特徴などのか」を問い合わせる質問に残したいと思います。——そのような記録は今日の状況を前述のようなものと見ると日常生活の世界からも、藝術の世界からも有意義な資料となると思います。——その點はよろしくお願い致します。